

2023年度事業報告

特定非営利活動法人WE 21 ジャパン都筑

事業概要

2023年度も、内外で大きな争いや自然災害が起きました。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエルによるガザへの攻撃は、終わりが見えず、市民の当たり前に暮らす日常、そして生存権がずっと奪われています。国内においては年明けに能登半島大地震が起き、なくなられた方、被災された方々が多く、日常を取り戻すにはまだまだ時間がかかりそうです。

WE ショップつづきでは、お客様の来店が増え、売り上げは、目標を達成した上に、コロナ前の2019年度の売り上げとほぼ同額となり、飛躍的な実績となりました。さらに、ショップやリメイクのボランティア参加も増えて、元気に活動することができました。

事業報告

1. 資源のリユースリサイクルを推進する事業

2023年度リユースリサイクル売上 5,339,428 円（目標比 107%、前年比 112%）

2023年度ショップボランティア 新規登録 6名

※月ごとの詳細は2023年度活動実績を参照

実績	売り上げ	顧客数	ボランティア延べ（実人数）	寄付者（新規）
2023年度	5,339,428 円	6,479 人	654 人（26 人）	1872 人（79）
2022年度	4,752,092 円	6,004 人	456 人（22 人）	1651 人（81）
前年比	112%	108%	143%（118%）	113%（98%）
2019年度	5,339,913 円	6,797 人	753 人（19 人）	1853 人（88）

- 1) 年間計画通りに活動することができました。年3回のセール及び着物フェアは十分な換気を行い入店制限を実施したうえで開催しました。雨の日対策として、今年も6月に「雨の日ラッキーくじ」を実施、顧客数の落ち込みを防ぐ努力をしました。毎月1日、15日に何かがお得になる「わくわくデー」は定着し、毎回楽しみにしているお客様が多く来店されています。

	売上	顧客数	前年比
アニバーサリーセール	232,563 円	268 人	131%
夏のセール	193,780 円	265 人	99%
着物フェア	301,494 円	147 人	114%
冬のセール	240,594 円	282 人	111%

- 2) 様々な寄付品を整理・管理し、従来の「衣類・雑貨」というくくりを越え、季節感はもちろん、桜や猫などのモチーフ、UV対策・秋のお出かけといったテーマを設けた売り場づくりをし、商品が最大限魅力的に見えるような陳列をしました。また、インテリア雑貨やはぎれ等は、ある程度集

まるまで待ち、まとめて陳列することで、お客様の選択肢を増やし、わくわく感を持ってもらえるよう工夫しています。売り場の整理整頓を心掛け、お客様が手に取りやすく、買い物がしやすくなるよう努力しました。

3) 公式ラインやInstagramをショップの情報発信に役立て、それをきっかけに多くのお客様が来店、売上アップにもつながっています。公式ラインのお友達登録数は210名以上（前年比150%）になり、ショップの情報を直接お客様に届けられる大変有効なツールとなりました。ショップ企画のお知らせだけでなく、魅力的な商品などをアップし、「公式ラインのお知らせが来るとショップに足を運びたくなる」という声を多数いただき、スタッフの励みにもなっています。

4) 若い顧客の獲得を目指して企画している「お下がり交換会」は5年目となり、タウンニュース、ロコっちなどのメディアに取り上げられました。HPやInstagramにも載せているので、「お下がり交換」というキーワードがきっかけで、WEショップに初めて来店してくださる方が毎年いらっしゃいます。大きいサイズの子供服を集めるなどの努力をし、多くの子育て世代に大変好評をいただきました。

5) 昨年度に引き続き、チラシを配架している地域施設からの紹介、ショップでの声掛けにより、6名の方を新しいボランティアとしてお迎えしました。ボランティアラインを開設、人手が必要な時の連絡など、スタッフとのコミュニケーションがスムーズになりました。WEショップのことを知っていただくとともに、親睦を深められるようボランティアミーティングを2回開催しました。昼食をはさんで長時間活動してくれるボランティアさんもあり、ボランティア活動がコロナ以前の姿に戻りつつあります。

6) リメイクチーム（メンバー10名）

寄付された着物や手芸用品を活用し、リメイク作品として販売をしました。（96点 101,590円）毎月毎月第4月曜日にリメイクチーム会議を開催し、リメイク作品を持ち寄ったりするだけでなく、合同で小物づくりをしたり、リメイク講座を開催するなど、活発に活動を行いました。

・10月リメイク講座 和布のネックレス 参加4名

・1月30・31日 WE21 着物・リメイクフェア出店販売 45,200円

7) 資源の有効利用

整理整頓を心がけ、衣類は季節ごと、雑貨は品目ごとにまとめて管理し寄付品が有効活用されるように工夫しています。販売できず廃棄になるものを減らすため、「寄付していただきたい物・寄付いただけない物」のチラシを活用しました。公式ラインやInstagramを使い、広く商品情報を知らせるとともに、見切り品をまとめ売りや格安販売するなど、廃棄を減らす努力をしました。

ショップという拠点を生かし、羽毛布団の回収を行い、WEショップが資源の有効活用に取り組んでいることをアピールしました。WE 21 ジャパン・グループの一員として、家庭での使用済み食用油の回収に取組み、「WE 油田つづき」を継続しました。

本年度も故繊維業者「ナカノ」を通じて衣類のリサイクルに努め、同社が開発したエコ手袋を販売しました。

■羽毛回収 2023年度 26.5kg (1kg以上19枚、1kg未満5枚、ダウンジャケット22枚)
Co₂削減量 46.7kg 前年比52%

■廃食油回収 2023年度 250kg (CO₂削減量650kg) (前年比66%)

リサイクル提携先

古布 : ナカノ(株) 横浜市金沢区福浦2丁目8-8

廃食油 : (株)ユーズ 東京都墨田区八広3-39-5

羽毛布団 : (一社)グリーンダウンプロジェクト 東京都北区田端6-4-22

綿製品 : (一社)サーキュラーコットンファクトリー 東京都目黒区目黒1-1-16 目黒台マンションC308

【日時】 通年

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員5名 ボランティア31名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 5,334,678円

2. アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業(民際支援事業)

1) 民際支援事業

①ACE「ピース・インドプロジェクト」の終了

2019年度から2023年度までWE21ジャパン都筑が支援をしてきたACEの「ピース・インドプロジェクト」事業が、2023年8月に終了し、現地パートナー団体および住民に引き継がれました。今年度のプロジェクトの柱は、住民ボランティアによる家庭訪問や、子どもたち自身で権利に気づく「子どもクラブ」などスムーズな運営につなげるための引き継ぎとなり、9月に引き渡し式が行われました。終了したことを、冬ニュースで報告しました。

②新たな支援先の検討

下半期の運営委員会にて、新たな支援先の検討をしました。大きな柱として、「女性と子どもたちの支援」とし、また「お客様にストーリーを語る」「報告会を開催できる」「個人の活動より団体」というポイントを確認しながら、候補を絞り込んだ結果、タリバーン政権下で厳しい制限を受けながらもアフガニスタンで女性教育に取り組む「女性たちの学校」を支援することに決定しました。

助成団体：一般社団法人平和村ユナイテッド

事業名：「女性たちの学校」

助成金額：100,000円

③「3.11 忘れない」東日本大震災支援

13年前の大震災のことを忘れずに、そして子どもたちの未来を守っていけるように、3月11日のWEショップの売り上げを、特定非営利活動法人いわき放射能市民測定室たらちねに寄付しました。

助成団体：特定非営利活動法人いわき放射能市民測定室たらちね

事業内容：福島第一原子力発電所の事故による被ばくの被害から子どもたちと地域の人々の健康と暮らしを守る。こころのケア、海洋調査

助成金額：26,500円

④イラク・シリア支援 JIM-NETチョコ募金

店頭にてチョコレートを置き、募金を集めました。今年度も都筑区内の市民活動団体にも働きかけ、販売につなげました。イラクの小児がんの支援、シリア難民支援、JIM-NETハウスの運営、福島の子どもの支援に使われました。

募金先：特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

事業名：イラクの小児がんの医療支援・シリア難民医療支援・福島の子どもの支援

募金額：110,600円

⑤「Team Beco」のシリア支援になる年賀状の販売

シリアの子どもたちへの支援として、「Team Beco」の年賀状とはがきを購入し、ショップで販売しました。年賀状の収益は経費を除いて全額シリアの子どもたちへ届けられました。

寄付金額：3,350円

⑥トルコシリア地震緊急募金

2023年2月に発生したトルコシリア地震への緊急募金を店頭で行いました。支援先は、国際NGOの、認定NPO法人 AARJapan（難民を助ける会）としました。

募金額：22,139円

⑦ガザ緊急募金

2023年10月7日以降、イスラエルとパレスチナ・ガザ地区で続く衝突は、時の経過とともに負傷者が増える一方で、物資や燃料は不足し続けており、医療体制は崩壊しています。

WE21ジャパン都筑は10月以降、店頭で緊急募金を始め、支援先はNGO日本国際ボランティアセンター（JVC）としました。

また、日本国際ボランティアセンター（JVC）を含む日本の市民団体4団体が外務省に提出した、「イスラエル・パレスチナにおける武力行為の即時停止への働きかけを求める」要請文の賛同団体となりました。

募金額：42,073円

⑧能登半島地震緊急募金

2023年1月に発生した能登半島地震への緊急募金を店頭で実施しました。支援先は、国際NG

〇の、認定NPO法人AARJapan（難民を助ける会）としました。

募金額：52,000 円

⑨フードドライブ

2021年4月より、毎月1日～10日と期間を決めて店頭で実施しているフードドライブは、地域に定着し、食料品のほかに、生理用品などの生活雑貨の寄付も毎月集まるようになりました。2023年5月にWE講座「フードドライブ品はどこへ行く？」を開催して「フードシェア*つづき」での登録者や分け合いの状況を共有し、7月に「米1合キャンペーン」を実施して、いちばん必要とされている米の寄付も始めました。

寄付先： フードシェア*つづき（食品・雑貨797点、65.5kg 米60.3kg）

助成金および募金の総額

	寄付金・助成金	募金	計
平和村ユナイテッド「女性たちの学校」	100,000 円		100,000 円
「3.11 忘れない」東日本大震災支援	26,500 円		26,500 円
JIM-NET チョコ募金		110,600 円	110,600 円
「Team Beco」のシリア支援になる年賀状		3,350 円	3,350 円
トルコシリア地震緊急募金		22,139 円	22,139 円
ガザ緊急募金		42,073 円	42,073 円
能登半島地震緊急募金		52,000 円	52,000 円
合計	126,500 円	230,162 円	356,662 円

2) 民際収益事業

①パレスチナオリーブオイル（常設）・オリーブ石けん（常設）・ザアタル・刺繍製品の販売

イスラエル・パレスチナの平和のために設立されたオリーブオイル生産団体のガリラヤのシンデリアナのオリーブオイルとザアタル、パレスチナ西岸地域のナーブルスで生産された石けん、ヨルダン川西岸地区のイドナ村女性組合の女性たちが伝統の手刺繍をした刺繍製品を店内で販売しました。

② 森育ちのしょうがパウダー販売（常設）

フィリピンの北ルソンの山岳地域の3つの村の生産者組織が、収入向上と保健事業のために生産するしょうがパウダーをWE21グループで計画購入し、店内で販売しました。

③ 森育ちのしょうがクッキー

森育ちのしょうがパウダーを原料とし、横浜市内の社会福祉法人が製造したクッキーを店内で販売しました。

④ 珈琲工場&百屋（常設）

コーヒーの森事業で支援してきたフィリピン・ルソン島の山岳地帯にあるバアヤン村の森で育てられたコーヒーを店内で販売しました。

⑤ 第3世界ショップから仕入れた食品の販売

フェアトレードフェアの際にインド南部のシンガンパティ農園の紅茶・ナッツ類・オーガニックチョコレート（添加物不使用）を、店内で販売しました。

製品	支援団体	仕入額	販売数
オリーブ石鹸等オリーブ製品 ザアタル、刺繍製品	合同会社パレスチナ・オリーブ	66,064 円	オリーブ石鹸 38 オリーブオイル大 10 オリーブオイル小 7 ザアタル 18 刺繍商品 6
森育ちのしょうがパウダー	ウバパス/ダイコン/ランパダ/シュントック財団	41,259 円	40
森育ちのしょうがクッキー	社会福祉法人夢 21 福祉会 社会まどか工房	2,344 円	8
フィリピンバアヤン村コーヒー	珈琲工場&百屋 CGN(コーデリエラ・グリーン・ネットワーク)	15,043 円	26
ナッツ類、紅茶、チョコレート	第 3 世界ショップ	27,300 円	74
合計		152,010 円	

【日時】 通年

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員 5 名

【受益対象者】 福島県・石川県・神奈川県の市民、アジア等（フィリピン・イラク・シリア・パレスチナ・スリランカ・インド等）の市民

【事業支出額】 501,218 円

3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業（共有活動）

1) WE 講座 「WEショップつづきのフードドライブ品はどこへ行く？」をかけはし都筑 多目的ホールで実施しました。（2023 年 5 月 21 日）

講師 フードシェア*つづき 西島遊さん 参加者 18 人 （含む一般参加者 2 名）

日本、横浜市の貧困率、一人親家庭の様子から、フードシェア*つづきの活動の経緯、現在の協力団体、そして、今のフードシェア*つづきの分け合いの様子、（登録者増に対して、寄付品が減っていること、特にお米の需要が多いこと）がわかり、より効果的なフードドライブへの呼びかけ方法の工夫や、お米の一合運動の実施につながりました。

2) フェアトレードフェアを実施しました。（10 月 23 日～10 月 28 日）

常設のフェアトレード品の他にパレスチナの刺繍製品、第3世界ショップから仕入れた食品を販売し、フェアトレード品をアピールしました。パレスチナは以前から紛争地帯にも関わらず、国、宗教を超えてパレスチナ人、ユダヤ人、外国人が協力していること、農薬、化学肥料を使わず育てられたオリーブを使用していること、世界のオリーブオイルの国際コンペで入賞していること、3点をアピールポイントとし、来店者に伝えました。期間中はパネル展示および店内設置のパソコンで動画を流し関心を持ってもらえるようにしました。また期間中は毎日日替わりで試飲、試食も行いました。

3) しょうがパウダーの試飲を店内で行いました。

フィリピンのしょうがパウダー製作手順を動画で流し、関心を持っていただけるようにアピールしました。

4) リメイク講座「和布のネックレス」をかけはし都筑で開催しました。(10月23日)参加者4名

着物のハギレを使い、不要になったものも工夫して使うことや、手仕事の楽しさを伝えるリメイク講座を開催しました。制作手順の確認や、キット制作などリメイクチームで準備しました。当日はメンバーはリメイクフェア用に、参加者は自分用にと、共に作品を作成しました。

5) インターンを受け入れました。(明治学院大学 国際学部国際学科3年生 8月28日～10月25日)

10月のフェアトレードフェアに向けての取り組みを中心に、フェアトレードの学習、店頭で流すPR動画作成、地域内での広報(パンフレットのフィットネスクラブへの配架の働きかけと実行)、フェア開催時の来客者へのアピールをしてもらいました。

若い世代に、活動を知ってもらうと同時に、Instagram等、広報について情報をもらいました。

6) つづき人交流フェスタ(都筑区主催)に参加しました。(3月3日(金)～3月8日(水))

動画と、パネル展示を通じて、リサイクルと民衆支援を紹介しました。

【場所】都筑区

【従事者】運営委員5名

【受益対象者】一般市民

【事業支出額】6,057円

4. 法人の事業の広報普及を図る事業(広報活動)

1) WE21 ジャパン都筑ニュースを3回(春、秋、冬)発行し、2022年度の支援先一覧、フェアトレード・フェアの案内、ACEの取り組み、チョコ募金のお知らせ等を行いました。

ニュースおよびチラシ作成

	部数	内容	配布対象
4月	4000	2022支援先・支援額報告、2022年度の活動概要、WE講座のお知らせ、新ボランティア紹介	ボランティアによる地域配布

9月	400	フェアトレード・フェア、着物フェア、リメイク講座	協力者、ショップ内配布、配架ボランティアによる地域配布（一部）
12月	300	ACEのピース・インドプロジェクト終了報告、チョコ募金お知らせ	協力者へ郵送とショップ内配布、地域の配架

2) WE ショップつづき公式LINE へのおともだち登録を呼びかけ、登録者数は 210 人以上になりました。お客様にショップからのお知らせ、商品情報を直接届けられるツールとして活用し、配信をきっかけにたくさんのお客様に来店していただくことができました。HP、Google マイビジネス、インスタグラムも活用し、情報発信に努めました。

3) セールのお知らせは、タウンニュースを利用してお客様に周知を図りました。フェアトレードフェア、子ども服おさがり交換会、は、タウンニュースに取り上げてもらいました。センター南の地域情報発信サイト「ロコっち」に、ショップからの情報を載せてもらいました。

4) 都筑区民活動センター等への配架用チラシをこまめに作成し、ショップへの顧客拡大、ボランティア拡大につなげました。

5) 横浜市が進める「ウエル・タウン（仮称）～横浜コミュニティサイト～」という簡単・便利に地域活動情報を発信できるサイトの実証実験に参加し、ボランティア募集、活動紹介をしました。

6) フェアトレードフェアのテーマとしたパレスチナオリーブの大きなパネルを作成し、また募金の結果はその都度掲示して、チャリティショップとしてのショップをアピールしました。

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員5名 ボランティア 15 名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 50,585 円

組織活動

1) 運営委員会

運営委員会は、年度の初めに年間の日程を決定し、毎月運営委員会を開催し、十分な協議・検討をすることができました。ショップ運営・組織活動等、全体的な活動については、年度当初に運営委員による役割分担を明確化し、方針に沿って実施計画をたてることにより、円滑に業務を遂行することができました。会計、税務、法人運営の届け出等については、外部に委託しました。

2) 会員

会員を含め協力者の方々へはニュース、SNS を活用してショップ運営や支援活動をお知らせし、活動を理解、共感してもらえるよう務めました。また、フェアトレードフェアや店内ポスター、WE 講座を通して、支援活動を広くアピールしました。都筑区役所区民活動センターやかけはし都筑にニュ

ースやらしを継続的に配架したこともあり、会員の増加に繋がりました。
認定 NPO 法人として活動や寄付メリットの周知に務め、寄付者を募りました。

正会員実績	2023 年度末	28 名	(入会 2 名 退会 1 名)
賛助会員実績	2023 年度末	14 名	(入会 0 名 退会 1 名)
寄付者	2023 年度	13 名	(計 104,300 円)

3) 認定 NPO 法人の更新

5 年に一度の認定 NPO 法人更新の時期にあたり、横浜市より認定の更新を受けることができました。報告書の提出とともに、活動の実態確認を受け、会計処理等の指摘事項を、今後に生かすよう処理の方法を確認しました。

4) ボランティア活動

今年度は、新たに 6 名の方をボランティアとしてお迎えすることができました。それぞれのボランティアは好きなこと、得意なことを生かして活動しています。新たに開設したボランティアラインで呼びかけると、積極的にシフトに入ったり、大掃除に参加したりするボランティアも多く、フレキシブルに活躍するボランティアが増えています。定期的、継続的な活動が難しいボランティアもいますが、折をみて呼びかけをするなど繋がりを保ち、セールや着物フェアなど人手が必要な時には、力を発揮していただきました。

リメイクチームは 1 名増え、リメイク講座の開催、WE21 着物・リメイクフェアに出店するなど意欲的に活動することができました。

5) WE 2 1 ジャパン・グループとの連携

- ・ WE 2 1 ジャパン・グループ会議に参加し、運営に役立てました。
- ・ WE 2 1 ジャパン主催の企画や講座（日本のかたちが変わる～他国への武器輸出、WE フェスタ、着物・リメイクフェア）、会員団体の講座（JCSN&ロイダッツ研修、J I M-N E T 報告会）に参加しました。

6) 地域との連携

- ・ つづき人交流フェスタ（都筑区主催）のパネル展示と動画に参加し、活動を紹介しました。
- ・ 都筑相談窓口におブザーバー参加し、相談事業や、活動情報、フードドライブを都筑で進める、フードシェア*つづきの活動を共有しました。相談窓口のパンフレットを店頭に置きました。
- ・ つづき MY プラザから依頼された、中高生ボランティアを受け入れました。（7/26～8/8、9 人）
- ・ 都筑区内にある発達支援教室「たすく」から高校生 1 名を受け入れ、キャリー便の作業ボランティアを経験してもらいました。
- ・ 都筑区地蔵まつりにお下がり交換会のチラシを置いてもらいました。
- ・ 地域通貨「リーフ」を活用して、地域のボランティア活動を応援しました。

【場所】 横浜市都筑区
【従事者】 運営委員 5 名
【受益対象者】 一般市民
【事業支出額】 243,868 円